

桜工

2020

理工学部校友会創立70周年記念号



目次

理工学部創設100周年に向けて	「岡田 章」… 2
短期大学部（船橋校舎）創設70周年に向けて	「小林 昭男」… 3
理工学部校友会創立70周年に向けて	「木田 哲量」… 4
理工学部校友会創立70周年に向けて	
理工学部校友会の役割	
一特に土木部会について一	「近藤 勉」…5
70年を超えて校友会がますます元気になるために	
	「半貫 敏夫」…5
機械工学科のエンジンの研究の歴史	「吉田 幸司」…6
230年前・50年前の先達・恩人	「田原 博」…6
桜工が記録した校友会	「関口 優紀」…7
会誌委員会の思い出、そして仮想現実社会	「齋藤 勝宣」…7
70年に思う	「志方 洋一」…8
未来の情報社会を見据えて	「酒井 俊介」…8
精密機械部会の 歩み	「加藤 透」…9
日大OBとしての私	「村松 孝」…9
宇宙の名のもとに、学科に育てられ、	
校友の力が未来の可能性を拓く	「広崎 朋史」…10
部会運営あれこれ	「香取 照臣」…10
まちづくり部会の学生支援について	「石松 怜」…11
情報部会学生会員による学外活動への支援について	
	「五味悠一郎」…11
入試・進路／社会人大学院募集情報	…12
部会だより	…15
土木／建築／機械／電気／工業化学／精密機械／交通／物理	
数学／海洋建築／航空宇宙／電子／まちづくり／情報	
支部一覧	…22
支部だより	…24
事務局だより（事務報告・収支報告等・会費納入者名簿）	…28
理工学部・校友会NEWS	…31
顧問・相談役会開催／令和元年度理工学部校友会奨学生証	
書授与式／工科系校友会連絡会開催／工科系校友会支部長	
会開催／理工学部・理工学部校友会・顧問相談役会合同懇	
親会開催／各部会講演会活動報告	
5号館の思い出	…34
ありがとう5号館地下実験室	「富岡 昇」
ピロティを通り抜ける風が……	「関口 克明」
教育支援・ホームカミングデー	…36
令和元年度桜工賞受賞者一覧	…38
物理学科・量子科学研究所創設60周年記念祝賀会	…39

理工学部創設 100 周年に向けて

【CST × DREAM】 に込めたメッセージ

岡田 章

理工学部長・建築学科教授
(建築学科：S52 年卒)
(建築学専攻 博士前期課程：S54 年修了)

東京における 2 度目のオリンピックが開催される 2020 年、日本大学理工学部は創設 100 周年を迎えます。本学部は、創設以来、創設者の佐野利器先生の掲げられた目標「科学、技術を力とした実務者の養成」を堅持すると共に、時代の要請に応じながら新しい理工学部像を具体化してまいりました。理工学部の伝統を保持できた原動力は、先人たちのたゆまぬ努力と、変化を恐れない挑戦力にあります。これまで理工学部の伝統の形成に関わってこられた校友の皆様、お一人おひとりに感謝申し上げます。



2019 年を振り返ってみますと、理工学部にとって最大の出来事は、隣接する公開空地の完成時に行われた「タワー・スコラ」のグランド・オープンでした。公開空地には、ひときわ目を引く網目状のアルミニウム鑄物の球形モニュメント（直径 2.5m）「CST SPHERE」が据えられています。このモニュメントは、理工学部の「創設 100 周年ロゴマーク」と深い関わりがあります。ロゴマークは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のエンブレムをデザインされた野老朝雄氏の手によるものです。「CST SPHERE」は 30 個の楕円から構成されていますが、光を投射すると、ロゴの影が浮かび上がる仕組みとなっています。

さて、この一世紀を理工学部の教育の底流にある「ものづくり」という視点から概観すると、大量生産・大量消費の時代、多種多様な「もの」が創出された時代でした。この時代、本学部の輩出したエンジニアたちの大きな貢献は、「エンジニアリングの日本大学」と称されていることから明らかです。一方、現代では「第 4 次産業革命」とも呼ばれる IoT や AI を中心とした技術革新が急速に進んでいます。有形の「もの」以外に、無形の「もの」をいかに創り出し、いかに「こと」を起こしていくかが、社会をリードするエンジニアには重要な使命となってきました。

こうした時流の下、また理工学部のハード面の整備が進む状況下で、ソフト面（教育・研究）のさらなる充実が必要と考えています。その指針のひとつとして、私は【CST

× DREAM】を教育のスローガンとして掲げました。このスローガンは、科学技術の急激な発展により進化・変化している将来の日本において、社会に貢献できる人材を育てたいという気持ちを表しています。

教育スローガンには二つの意味があります。一つは、理工学部（CST）で学生一人ひとりの〈ユメ〉を実現するという文字通りの意味です。もう一つの意味は、本学部で修得してほしい〈能力〉を表したものです。理工学部の学問の根幹の 5 要素、【科学（Science）】・【技術（Technology）】・【工学（Engineering）】・【芸術（Arts）】・【数学（Mathematics）】を体系的に修得し、これらを基に【デザイン（Design）】という創造的行為を通して「もの」や「こと」を【具現化（Realization）】できる〈能力〉を修得してほしい、という思いを込めています。こうした学生への思いと共に、それを涵養できる【学部（College）】でありたいというメッセージを、8 語の頭文字で表現したものです。

100 年にわたって、日本大学高等工学校から日本大学理工学部へとつながれた襷は、これからも新しい世紀へと渡されていくことでしょう。科学技術の進歩が止まらぬ限り、ゴールはいつも先にあります。私たち日本大学理工学部は、培われてきた伝統と誇りを礎にして、未知・未踏に挑戦しながら、着実に歩を進めて参ります。



タワー・スコラと CST SPHERE

短期大学部（船橋校舎）創設 70 周年に向けて

新たな歴史を拓く短期大学部を目指して

小林 昭男

短期大学部（船橋校舎）次長 海洋建築工学科 教授
（建築学科：S54 年卒）
（海洋建築工学専攻 博士前期課程：S57 年修了）
（海洋建築工学専攻 博士後期課程：S60 年修了）

日本大学短期大学部（船橋校舎）の歴史は、昭和 25 年（1950 年）に創設された建設科、工業技術科、応用化学科を有する日本大学短期大学工科に始まり、昭和 27 年に日本大学短期大学部工科と改称され、学舎は駿河台校舎と両国校舎から津田沼校舎を経て現在の船橋校舎に移動し、平成 8 年（1996 年）には日本大学短期大学部（船橋校舎）と改称されました。創設以来 70 年の間には様々な社会の変化があり、それぞれに対応すべく変革を図り理工系の総合短期大学として発展してまいりました。70 年の長きに亘り、多くの卒業生を輩出できましたことは、校友の皆様のご支援の賜物と存じます。紙面をお借りして皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。



現在の短期大学部（船橋校舎）は、「建築・生活デザイン学科」と「ものづくり・サイエンス総合学科」の 2 学科体制で日本大学教育憲章に基づいた教育を実践しています。教育の範囲は理工系のほぼ全分野を網羅し、建築・生活デザイン学科では入学定員 110 名に対して建築と土木の分野を教育し、ものづくり・サイエンス総合学科では入学定員 70 名に対して機械、電気・電子、情報、化学、物理、数学の各分野を教育しています。この教育組織において、短期大学部（船橋校舎）を志願する受験生は、多様な分野を持つ 2 学科の内の 1 学科を選択し、入学後の一定の学修を経た後に志望分野を決めることができます。修業の過程で 4 年制大学への編入学あるいは就職の進路決定をしますが、卒業生の 80% が編入学し、その進学先のほとんどが日本大学の理工系学部です。このような状況は、まさに今後も期待される短期大学部のあり方を表しているものと考えられます。

短期大学は、学校教育法第 108 条による「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成することを主な目的」とした修業期間が 2 年または 3 年の教育組織です。これは短期間に社会で役立つ教養や技術を修得させる組織とも言えますが、現在の社会環境において

は、このようなニーズは薄れています。一方で、短期大学部（船橋校舎）では、入学後の修業過程で専門分野を決めることができるという特徴があるので、受験時に 4 年制大学での志望学科の選択に余地を残したいというような高校生のニーズに対応しています。このように短期大学部（船橋校舎）は、高等学校における自己形成の延長として、専門分野を有する自己の社会的位置づけを明確にさせるための教育組織に変化してきました。このことは、短期大学という教育組織に期待される短期間のリカレント教育と共に、短期大学部（船橋校舎）の大きな特徴となっています。

この大きな特徴を享受して羽ばたいた多くの卒業生がいるにも関わらず、旧来の意味合いが強い「短大」という言葉の響きがあるために、少子化が進む中での志願者数の確保には懸念があります。このことを払拭し、現在の役割に相応しい説明として、「短期大学部（船橋校舎）は理工系学部の前期課程」という考えを提唱しています。すなわち、短期大学部での 2 年間と大学編入後の学部での 2 年間を、大学教育として一貫性のある前期課程と後期課程として捉えます。この短期大学部を学部の前期課程と捉える考えは、今後の総合大学理工系学部と専門職大学との進学先のすみ分けという点において重要な意味を持つものと考えています。さらに高校生向けには、前期課程から後期課程へ編入するという一貫した修業と、大学院への進学や優良企業への就職という人生のステップの一つが短期大学部であるというような積極的な説明ができます。

このステップの一翼を担う短期大学部（船橋校舎）は、今後の社会環境や高校生の志向の変化に柔軟に対応する教育組織となるよう、教育の質の向上を目的とした改革を継続してまいります。校友の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



春の船橋校舎

理工学部校友会創立 70 周年に向けて

桜工の役割と 200 号刊行に期待して！

木田 哲量

理工学部校友会会長
(土木工学科：S42 年卒)
(建設工学専攻 修士課程：S44 年修了)

日本大学理工学部が 2020 年に創設 100 周年を迎えられましたことに謹んでお慶び申し上げます。1920 年の日本大学高等工学校創立からの 100 星霜に亘ります教職員各位の並々ならぬご活躍と校友諸兄の母校に寄せる情愛に衷心より感謝申し上げます。



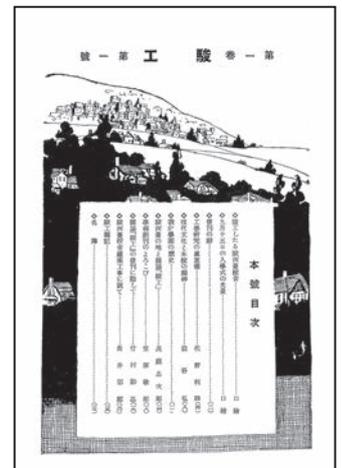
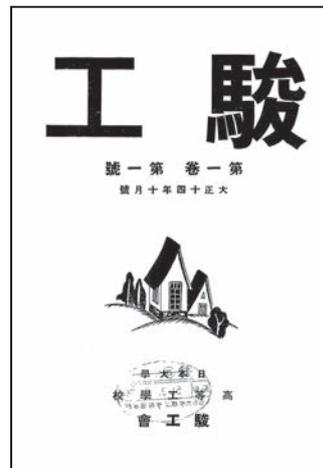
2020 年は、1948 年に当時の工学部駿河台地区における駿工会（高等工学校同窓会）、工学部校友会（旧制工学部・新制工学部）、専門部校友会などが合体して「日本大学工科系校友会」として再発足してから 70 周年になります。その後、理工学部籍卒業生が 75% を超えた 2002 年に「理工学部校友会」と名称変更して現在に至っています。

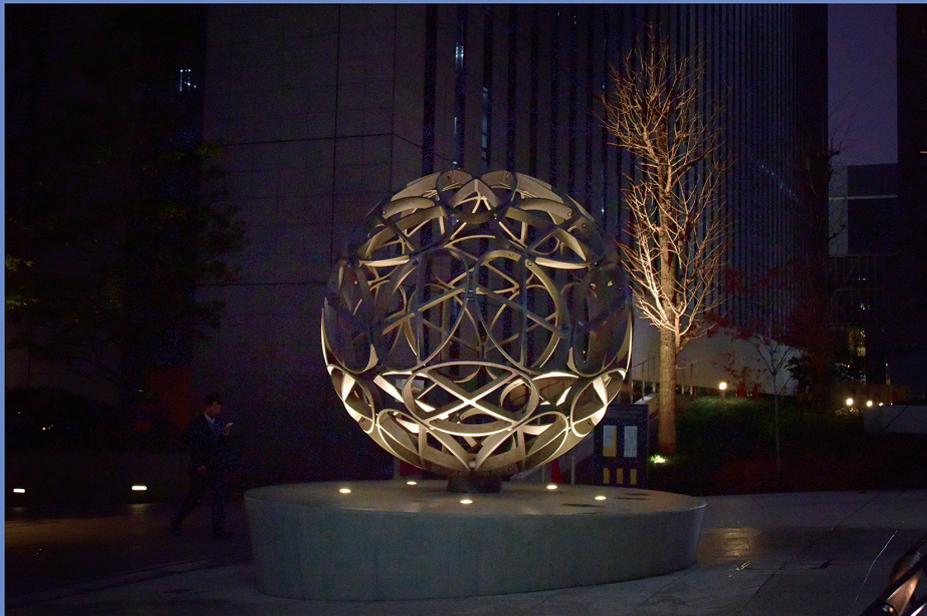
桜工は校友会の機関誌として 1955 年 1 月に創刊号を刊行してから、本年発行の 102 号に至るまでの長きに経って校友の絆として使命を果たしつつ親しく愛読されています。この会誌の使命は「校友・教授・学生の関連を密にして絶えず大きく表現する」と創刊の辞に記載されています。太平洋戦争敗戦・戦後復興期に入り、校友が母校・校友会への要望が多岐になってきています。そのうちで最も多い記事は教授・会員投稿の学術論文です。そして、学部研究所主催の「年次学術講演会」を校友会が共催しており、会員を含めた 82 編が発表されて好評を得ています。学生時代を彷彿させる「神田一円で人気を呼んだ工学祭」の詳細も載せています。なお、高等工学校創設時における文部省（当時）や官公庁の動向を語っている初代校長佐野利器先生（耐震工学の先駆者）等による「日本大学工学部創立の由来—佐野先生を中心とした鼎談—（5 頁）」が掲載されています。理工学部創設時の技術教育が急務であり、大学・卒業生が全力を注いだ時代背景を知ることが出来ます。桜工第 2 号（1955 年 9 月発行）には、読者の要望に応えた「支部だより、個人消息」などの欄が設けられて内容の充実がなされています。この号の特集記事は「故藤田先生追悼座談会（p6 ページ）」です。1930 年代から戦中に架けての先生と学生の言動が情熱的に語られています。

この桜工の原形は駿工です。駿工は 1920 年に創立された本邦初の高等工学校である日本大学高等工学校の校友会駿工会機関誌（1925 年 10 月発行）です。駿工には、会員情報、学校の現況に加えて、未だ工学系学会の少ない当時（12 学会）の学会論文・教授の論文・会員の技術報告などを掲載しています。昼間は実務に就いて実技を習得し、夜間は学校で技術の学理を修めた大先輩には、駿工からの工学専門情報で習得した技術力が実務に役立った貴重な文献であったと聞かされています。

桜工は、会員の皆さんからご提供頂いた有益な情報を編集して下さいますので、これらの記事が学生諸君を含めた総ての会員の皆さまが有益に活用されまして、日大理工の卒業生が社会の発展と福祉向上に貢献なされますよう祈念申し上げます。そして、母校日本大学の一層のご発展と理工学部が次の 100 年に向けまして益々飛躍されますよう祈念申し上げます。

桜工第 1 号から 102 号までの歴代の編集委員各位に感謝申し上げます。





「CST SPHERE」(撮影：角耀)

2020年
日本大学理工学部創設 100周年
短期大学部(船橋校舎) 70周年



編集後記

2020年は理工学部にとって大きな節目の年、理工学部創設100周年、短期大学部70周年、そして理工学部校友会創設70周年を迎えることになりました。そこで今月号は「理工学部校友会創設70周年記念号」として編集しました。「理工学部校友会70周年に向けて」のページを設け、各分会から推薦していただいた校友の皆様から70年の思い出の原稿を寄せて頂きました。ご寄稿をいただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

5号館が解体され公開空地として整備され、タワー・スコラがグランドオープンいたしました。この公開空地に据えられた理工学部創設100周年のロゴマークを立体としたモニュメントの写真を掲載しました。

桜工編集に当たり、ご寄稿賜った皆様やご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも何卒ご協力をお願い申し上げます。

(文責：会誌副委員長 角 耀)

会誌委員会 (委員長◎、副委員長○)

◎佐藤 信 ○岩井 茂雄 ○角 耀 間宮賀津仁 山崎 栄介 山中新太郎 富永 茂 宮城 徳誠 春永 吉雄
太田 延幸 遠山 岳史 出口 真一 加藤 道雄 八田 洋三 居駒 知樹 安部 明雄 佐々木芳樹 石松 玲
高橋 遼

- 住所表示・勤務先・TEL番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
 - クラス会等に『桜工』をお送りいたします。(実費&送料が必要です。)
 - クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？
- 会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。

*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内
日本大学理工学部校友会事務局
TEL: 03-3259-0650
FAX: 03-3293-1370 (石黒・田中・江口)
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

令和2年度通常総会開催予定

日時：令和2年6月19日(金)
会場：東京ガーデンパレス

令和2年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

(日本大学工科校友会)



編集・発行者 佐藤 信
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社トーコー印刷